

自転車社会の環境改善を目指して No.29

自転車による 「まちづくり」に必要なツール ～しまなみ・ゆめしま「サイクリンリング」を体験して～

文

特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 会員
日本工営株式会社 都市・交通計画部

藤高 勝己

事務局：〒 141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 4 階
TEL 080-3918-2932
URL <http://www.cyclists.jp/>



はじめに

平成26年11月から12月にかけて自転車の聖地しまなみ・ゆめしまに2回ほど延べ5日間、人生初の「サイクリンリング」に行ってきました。旅を通じて感じた自転車による「まちづくり」に必要なツールについて述べたいと思います。特にこれといった大きな不満はありませんでしたが、何かものたりない、もう少しこんなことがあれば、できればいいのになあと感じたことがありました。

サイクルスタンドと盗難防止

統一的な規格・基準がない状況ですが、安心して利用する上で、盗難に対してももう少し頑丈なものが必要です。(写真1)などは、地面に固定されておらず、そのまま自転車ごと軽トラックとかで運べそうです。さ



写真1 サイクルスタンド

らに、可能であれば自転車110番的な警報鳴動や盗難防止カメラ見張り番(ダミーでも可)の設置なども必要です。船でしかいけない離島では、それらと連動した乗船場での警報鳴動も有効と思います。

Bicycle Friend認定施設の普及

サイクリストに安全・安心感を与えるフレンドリーな施設・店舗の見える化を普及させるため、自転車活用推進研究会で展開中の「Bicycle friend認定施設」(図1)の普及を薦めたいと思います。自転車大歓迎店舗のイメージ発信と、安全なサイクルスタンドの提供やトラブル対応キット等の整備促進を薦めたいです。認定施設の普及により、リピーター確保が期待できます。

路面に描くサイクリンコース

サイクリンコースを路面に描く見える化がおすすです。現在は、(写真2)のようなブルーレーンと路面表示です。配布されているマップには複数のコースが記載されていますが、実際の路面には表示されていません。コース別に色分けをしてレーンを描くとともに、分岐点手前では主要地

点名称と、そこまでの距離や現在位置での海拔などを示すとよいです。しまなみの幹線道路から各島の周回道路へ進入する手前の分岐箇所で、停まって確認できるコースや施設案内がさりげなくあるとよいです。

みんなでつくる わかりやすいサイクリンナビ

利用者の目線やニーズに見合った、わかりやすいサイクリンナビが欲しいです。最終的には、しまのわ広域エリア全体を対象とした自転車を含む公共交通でめぐる際に使えるナビがいいです。時刻表や乗り



図1 「Bicycle friend認定施設」のイメージロゴ



写真2 ブルーレーンと路面表示



写真3 行き先が明記されていない船

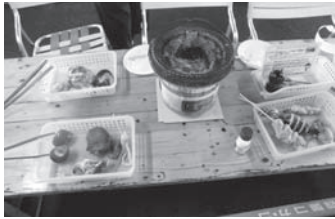


写真4 香りある海の幸系グルメコンテンツ

継ぎ場所等は、残念ながら各公共交通機関が個別で情報を提供していません。離島では、船の発着時刻や自転車積載可否等が重要です。発時刻はほぼオンタイムなのですが、行き先が明記されていない場合があります(写真3)、乗り間違えそうになりました。出発地と目的地を選択すれば、交通情報はもとより、サイクリングに必要な情報やホットでリアルタイムな施設情報を検索可能なものがベターです。サイクリストが撮影した写真や口コミの掲載・検索や地域のイベント情報等、みんなでつくる地域独自のナビとすることにより、コンテンツの更新などが持続可能となり、魅力あるものになると思います。

香りある グルメコンテンツの発信

サイクリングの最中では、香りに対する感度が高くなり、特に、ソース系や海の幸系(写真4)はもうたまりません。どこで、どのような地産地消グルメが堪能できるのかという情報に価値があります。これらの情

報をナビのコンテンツとするとともに、現地の案内ツールを用いて、場所、内容、時間を提供できるしくみが欲しいです。

リピーター確保のための ハートフルなおもてなしの心

地元の要望は観光客増加、すなわちリピーター確保です。また来たいと思う気持ちにいかにかさせるかです。イベントなどで一度来訪したときに、また来ていただくためのサービス、商品をどうするか。ここには風景という絶大なる商品があります。岩城島や魚島の頂上は格別ですが、一度見てもう一度見たいという気持ちにはならないかもしれません。来訪者の心に染み込む真心のこもったコンテンツを常に意識して提供し続けられたいと思います。それは、ずばり、ハートフルなおもてなしの心。会話、コミュニケーション、雑談等いろいろと手段はありますが、「訪れる人」と「迎える人(住んでいる人)」の間で、いかにして短時間で効果的に心の触れ合いができるか。今回の旅では、船の待合室や地元の食堂にて触れあうことができました。歴史や文化、風俗など、教科書やガイドブックには記載されていないものを現場で体験することで、もっと知りたい、触れ合ってみたい、泊まってみたいなどの要求が芽生えます。留まる箇所、出会いやふれあいのサービスを通じて、「訪れる人」と「迎え

る人(住んでいる人)」をいかにつなぐか。「箇所」とは、レンタサイクル店舗、サイクルオアシス、道の駅、海の駅、トイレ、バスや船等ターミナルなどの交通結節点、待合室、地元食堂などです。出会い、ふれあいのためのちょっとした出来事によりハートフルなコンテンツを発信、実施することで、満足のいく旅になり、リピーター確保につながると思います。

「サイクリング」による 新たな旅の発見

岩城島積善山の山頂まで小漕港からランニングにて登山道を登りました。自転車のみでは上半身が固まるので、サイクリングとランニングとのコラボ、すなわち「サイクリング」による移動がおすすめです。途中での紅葉に加えて山頂にて瀬戸内を一望できました(写真5)。期待以上の素晴らしい景観、桜の木がたくさんあり、4月には見ごろを迎えます。山頂からの眺めがいいというハートフルな情報は、現地の方とのふとした会話からでした。

(次号に続く) PP



写真5 岩城島積善山山頂からの眺望

「自転車検定」を始めました



インターネットで、いつでも受験できる「自転車検定」サイトを設けました。無料のお試し検定も行っています。自転車活用推進研究会のホームページ〈<http://www.cyclists.jp/>〉からどうぞ。



自転車社会の環境改善を目指して No.30

自転車による 「まちづくり」に必要なツール

～しまなみ・ゆめしま「サイクリング」を体験して～
(続き)

文

特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 会員 藤高 勝己
日本工営株式会社 都市・交通計画部

事務局：〒 141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 4 階
TEL 080-3918-2932
URL <http://www.cyclists.jp/>



魚島サイクリング

その会話の一つに「魚島(うおしま)がとてもいいじゃけえ～」というお言葉をいただき、瀬戸内海へのそ、またの名を海賊の要塞として恐れられていた魅惑の島に、1日4往復の船で初上陸しました。

左手に持っているもの(写真1)は、現地の漁師さんとの金額交渉により納得価格で手に入れた大物サイズの「デビラ(タマガンゾウヒラメの別名)」という干物。帰りの電車の中では、そりゃもう何とも言えない幸の香り。お味の方はというと、これがすべてお土産でリリースしてしまいました。たたいて身をほぐしてからあぶって食べるらしく、お酒のアテに最高とか。町内のスーパーでも買えますが、少し値が高い。



写真1 デビラ獲ったどー

町営のレンタサイクル(電動アシスト)を借りて島を一周(図1)。

なんと、海岸の砂浜に獣の足跡2頭分が点々と…たどってみると、恐らくイノシシ(でも1匹)の昼寝。起きるとまずいので、そのまま退散。役場の方によると、農作物(ネットで囲っている)に被害があるとのこと。

南側は砂浜と眺めのよい海岸が続き快適なサイクリングコース(写真2)となっております。

やはり頂上へ行きたいので、城山



写真2 瓢箪島にうっとり

展望台へ自転車を置いて恒例のランニング? いや山登りとなりました。途中の階段では倒木が道を塞いでいて悪戦苦闘。展望台は期待通りのパノラマ。積善山に匹敵する絶景でしたが、雑草が生い茂っていました(写真3)。

周回道路から戻ってみると、またもや倒木。バックホウで除去作業の最中でした(写真4)。我々(たぶんその日唯一の島内周遊観光客)の行程を想定して、町の職員さんが業者

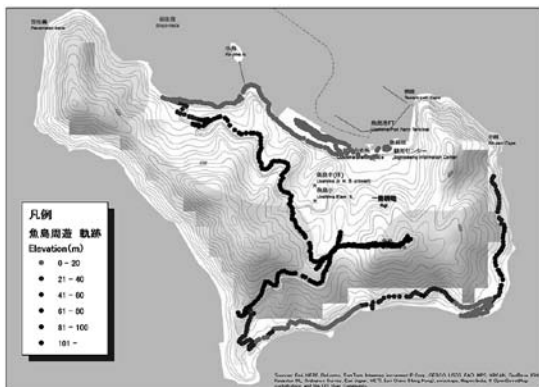


図1 魚島めぐり 自転車での走行軌跡



写真3 城山展望台から遠くに弓削島を望む



写真4 倒木による通行止めから復旧中



写真5 第七十三番 出釈迦寺のお地藏様



写真6 魚島地域交流施設となる建物

に指示したのかもしれませんが(そんな訳ないか)。

また、島内の周回道路には四国八十八ヶ所霊場のお寺の名前の看板とともに、お地藏様がいらっしゃいました(写真5)。

魚島総合支所の近くで、魚島地域交流施設が建設中でした(写真6)。ここで、島の観光ガイドのスマホアプリの案内や、自転車ナビの貸し出しができるとういと思います。

冬は風も強いので漁にはあまりいかならしく、島唯一の食堂(写真7)



写真7 魚島観光センターお食事処 しおじ

では魚系のメニューがなく、お肉料理を堪能してきました。魚はすべて生を料理するそうで、冷凍のものはないそうです。さすが「魚島」ですね。

サイクル観光ナビマップ

島には半日滞在、想像以上の自然を堪能し、ゆったり流れる魚島時間を満喫しました。ガイドマップ片手の島めぐりでした。ここだけでなく、しまなみ・ゆめしま全体に言えることですが、スマートフォンなどで使うことのできるサイクルナビマップがあればもっと観光を楽しめると思います。

島の観光移動手段としては、サイクリングやランニングが有効であることを再認識しました。手軽に移動しつつ、地元の方と会話を楽しむ。新鮮でお得な情報を入手し、香りでグルメを堪能しつつ、安心して駐輪ができ、ゆっくりと適切かつ確実に路面を見ながら、公共交通も活用し、見どころを巡る。そんな、のんびりとした観光がサイクリングでできればいいなあと思います。これまで述べてきたようなツールによる自転車を活用したまちづくりを提案したいと思います。

上島町でのナビチャリデモ

3月15日(日)には上島町で第28回ゆめしま海道「いきな」マラソン

が開催されます。この日から約1週間、(有)フォルテ殿と我々のプロジェクトチームにて、「サイクル観光ナビ」と、音声による観光案内サービス「ナビチャリ」の体験デモを実施しますので、ぜひお越しください。詳細は事務局まで。

おわりに

橋梁がなかった時代の移動は船でした。今でも船で移動している方々も多いこの地に、自転車が受け入れられるようになったきっかけの一つとして、船と自転車の速度が同じようである、ということが挙げられると思います。船や自転車は自動車よりもゆっくりした移動になり、都会の暮らしとは全く異なった非日常的な感じがします。非日常的な感じをいかに醸し出すかも、観光のまちづくりには必要だと思います。

近年、スロー、エコ、ヘルスなどのキーワード、ポタリングなどの展開もあり、ゆっくり感を味わう旅商品も売り出されております。

旅の魅力、コンテンツの魅力を増加させ、顧客満足度を高めるためにも、非日常のゆっくり感とあわせて、サイクル観光ナビや、これまで述べたようなツールの適切な拡充が必要であると考えます。

みなさん、自転車をお伴に、サイクリングで一度「上島町」を訪れてはいかがでしょうか。 **PP**

「自転車検定」を始めました



インターネットで、いつでも受験できる「自転車検定」サイトを設けました。無料のお試し検定も行っています。自転車活用推進研究会のホームページ〈<http://www.cyclists.jp/>〉からどうぞ。